

## 平成 29 年度 病害虫発生予察 特殊報 第 3 号

病害虫名：マンゴーハフクレタマバエ *Procontarinia mangicola* (Shi)

対 象：マンゴー

### 1. 病害虫情報の内容

マンゴーハフクレタマバエの発生を東京都小笠原村(父島、母島)で初めて確認した。

### 2. 発生経過

- (1)2016 年 10 月、東京都小笠原村母島のマンゴー栽培圃場において、新葉に円形斑点を多数生じ、激しいものは落葉する被害を確認した。発生確認後に、父島および母島両島における被害状況を調査したところ、父島では一部圃場で、母島では被害の程度に差はあるが、農業地域のほぼ全域で被害を確認した。
- (2)被害葉から採集した幼虫を羽化させ、横浜植物防疫所に同定を依頼したが、種の正確な同定に必要な雄成虫が含まれておらず、*Procontarinia* 属までの同定にとどまった。2017 年9月、雄成虫が捕獲されたことから、再度同定を依頼した結果、雄成虫の交尾器形態等の観察により、東京都では未発生のマンゴーハフクレタマバエであることが確認された。
- (3)本種は沖縄県(平成 12 年)、鹿児島県(平成 21 年)で確認され、特殊報が発表されている。国外では中国南部およびグアムに分布する。

### 3. 形態

体長は成虫が約 1.5 mm(図1)、成熟幼虫は約2mm(図2)で体色は黄色である。

### 4. 生態

雌成虫は交尾後に柔らかい新葉に産卵する。幼虫は孵化後葉内に穿孔し、直径 1.5～3mm ほどの円形のゴールを形成して内部を摂食する(図3)。成熟した3齢幼虫は葉から脱出し、地中浅くで繭を形成し蛹化、羽化する。概ね、卵期間は 2 日、幼虫期間は7日、蛹期間は 5～6 日、成虫の寿命は 2～3 日である。現在まで寄主植物はマンゴー以外確認されていない。

### 5. 被害

新葉に水浸状～黒褐色の円形斑点を生じる(図4)。古い被害痕は抜け落ち、丸い穴となる(図5)。葉の萎縮を伴うこともある(図6)。被害が激しい場合は落葉し、樹勢が衰える。硬化した葉や小花への寄生はみられない。

### 6. 防除対策および注意点

- (1)平成 29 年 11 月 15 日現在、本種に対する登録農薬はない。施設では防虫ネット(0.6 mm以下)を展張し

侵入を防止する。余分な新梢は本種が寄生する前に剪定する。幼虫が寄生している新梢は直ちに剪定し、幼虫などが分散しないように袋に密閉し処分する。葉から飛び出した幼虫は衣服や農業資材などに付着して拡散しやすいため、圃場間の移動の際は注意する。黄色粘着トラップでは捕殺されない。また、幼虫が脱出した痕から炭疽病が発生することもあり、被害が大きくなることもあるので注意を要する。

(2) 不明な点があれば小笠原亜熱帯農業センター、母島営農研修所、病虫害防除所や普及センターに連絡する。

## 7. 参考文献

沖縄県(平成 12 年)、鹿児島県(平成 21 年)特殊報

河村太(2002):農業総覧病虫害診断防除編第 7 巻 マンゴー マンゴーハフクレタマバエ



図 1 成虫(雌)



図 2 成熟幼虫

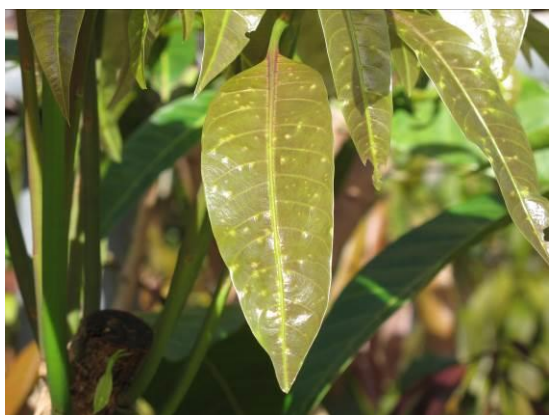


図 3 初期の被害葉



図 4 被害葉



図 5 被害痕(成熟幼虫が脱出した後)



図 6 萎縮した被害葉